



JAPIC会長 宗岡 正二
SHOJI MUNEOKA

JAPICについて

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会 (Japan Project-Industry Council: JAPIC) は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際協働と産官学の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済・環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目指して活動して参りました。現在37業種221社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学交流のためのプラットホーム形成等活動を行っています。

講座開設趣旨

神戸大学とJAPICとの連携協定に基づき、本リレー講座を開講します。

世界は、新興国の急成長や情報通信技術の目覚ましい進歩、金融市場のボーダレス化などにより、大交流・大競争時代にシフトしています(グローバル化)。

この時代を生き抜く学生は、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励み、一方でこの講義で説く『社会基礎学(グローバル人材に不可欠な教養)』を習得することが必要不可欠と考えます。

本リレー講義では、グローバル人材に不可欠な教養とは何かを探求し、全学部生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力の向上をサポートします。

学生に期待すること

本リレー講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か?」、「グローバル化の中で日本は?」について理解し、大交流・大競争時代の事実認識についての強い関心と好奇心を持って、グローバル時代にチャレンジするための備えに取り掛かることを期待します。

主催 / 神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部
一般社団法人日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC)
サポート / 神戸大学東京六甲クラブ

【問い合わせ先】

神戸大学研究推進部 産学官連携グループ

連絡先電話番号 / 078-803-5427

E-mail: ksui-sangaku@office.kobe-u.ac.jp



産業界・官界トップリーダーによる

連続リレー講座 2019

グローバル化とは何か? グローバル化の中で日本は?
学生は何を学び、何を身につけるべきか?

神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC) との連携協定に基づき、
産業界・官界のトップリーダーがオムニバス形式で講義します。

今、企業でどんな人材が求められているのか? 学生に何を身につけてほしいのか? 土曜日を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。

科目名

社会基礎学 (グローバル人材に不可欠な教養)

開講時期

2019年度 第2クォーター 土曜日 10:40▶16:40 全6回
(初日と最終日は13:20~16:40)

場所

鶴甲第1キャンパス
K棟 K202号室

科目区分

総合教養科目 (2015年度以降入学生)
総合科目I (2014年度以前入学生)
2単位取得

世界に挑め!



社会基礎学【2019年度】

※2単位取得(科目区分、卒業案件の取り扱いは、学年・学部によって異なります。)

第1回 6/15(土)

13:20-16:40

[導入講義] 連続リレー講義の意味・意義と狙い

PD-コーディネーター

JAPIC 常務理事
三浦 潔司

プロフィール:新日鐵(現日本製鉄(株))に入社し、主に鋼材の営業を担当。分野は、建築・土木、造船、建設機械、産業機械、地域は、東京、大阪、名古屋とそれぞれ幅広く担当。直近5年間は、新日鐵子会社にて、経営を担う。1男1女の父。趣味は、ゴルフ、読書、散歩に芸術鑑賞を加えるべく、勉強中。

PD-パネリスト

双日(株)顧問、神戸大学特別顧問
田邊 弘幸

プロフィール:1968年日商岩井(株)入社。日商岩井・双日を通じ、専務執行役員(金属エネルギー部門)、米州総支配人、代表取締役副社長などを歴任。2011年双日(株)顧問就任。2度に亘るニューヨーク駐在は合計9年間。1998年ハーバードビジネススクールAMPコース終了。三重県伊勢市出身。趣味は音楽鑑賞(室内楽・声楽を楽しむ)。六甲男声合唱団団長。日本モーツァルト協会副理事長。神戸大学経営学部卒業。★本学出身者

第2回 6/22(土)

10:40-12:10

現代の金融システム

金融は企業や個人が経済活動を行う上で不可欠な役割を果たしている。その一方で経済に悪影響を与えることもあり、悪者扱いされることも多い。講義では金融が個人の生活や企業活動にどう役立っているかについて具体的にみた上で、どう活用していくことが望ましいかを考えてみたい。

講師
吉村 隆

ゴールドマン・サックス証券(株)コンプライアンス部門統括 マネージング・ディレクター
プロフィール:1985年日本銀行入行。IMF出向、ニューヨーク事務所次長、政策委員会企画役を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券株の現職に就任。日本創生委員。趣味:旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘:天網恢恢疎にして漏らさず

PD-パネリスト

第3回 6/29(土)

10:40-12:10

アントレプレナーシップについて考える

近年はベンチャー企業への就職なども増加し、ベンチャーというキャリアも一般化している。日本経済発展の観点からも、社会からのベンチャー企業への期待が高まっている。この講義ではベンチャー企業を創業した当事者が、その創業、成長のストーリーを中心に、アントレプレナーシップ(起業家精神)について講義する。アントレプレナーシップは起業することだけにあらず、今後社会で活躍するために必須の精神である。

(株)ベイフオワード 代表取締役
谷井 等

プロフィール:1996年神戸大学経営学部卒。1996年日本電信電話(株)入社。1997年から会社経営に身を置き、1社を楽天(株)に、1社を上場の上.ヤフー(株)に売却。会社の設立から買収、売却、海外企業との業務提携、株式上場、TOBなど、ほぼ全てのコーポレートアクションを経験。2016年(株)ベイフオワードを設立。現在はスタートアップへの経営支援、エンジェル投資を行う傍ら、海外放浪の旅をしている。★本学出身者

パネルディスカッション 第1部 グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は? 第2部 学生は何を学び、何を身につけるべきか?

PD-パネリスト

野村アセットマネジメント(株) 取締役社長
中川 順子

プロフィール:1988年野村證券(株)入社。支店、投資銀行部門、財務部門を経験し2004年退社。2008年野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー(株)入社、同年社長に就任。2010年野村ホールディングス(株)へ異動。2011年執行役CFO。2013年執行役員、2017年野村アセットマネジメント(株)執行役専務、2019年同社取締役社長に就任。現在に至る。★本学出身者

PD-パネリスト

神戸大学 理事 副学長
小田 啓二

プロフィール:1956年山口県美祿市生まれ。学部高校、大阪大学工学部・大学院修了、同大助手、神戸商船大学助教授・教授、2003年神戸大学海事科学部教授。2009年から2013年海事科学研究科長、2015年副学長、2019年理事。2007年〜2008年度日本保健物理学会長、2014年から放射線審査委員会。趣味:サッカー観戦、ゴルフなど。

PD-パネリスト

神戸大学 理事 副学長
小田 啓二

プロフィール:1987年読売新聞入社。経済部で経産省、財務省、外務省、内閣府、国交省、総務省などの主要官庁や民間企業を取材。シンガポール特派員(アジア経済担当)、アジア総局長(バンコク駐在)も歴任し、計6年半にわたってASEANIに駐在、現地情勢を取材した。著書は、ASEANを巡る通商交渉の舞台裏や経済力を分析した「ASEAN大市場統合と日本」(文眞堂、共著)。趣味は旅行。

PD-パネリスト

神戸大学 理事 副学長
小田 啓二

プロフィール:1956年山口県美祿市生まれ。学部高校、大阪大学工学部・大学院修了、同大助手、神戸商船大学助教授・教授、2003年神戸大学海事科学部教授。2009年から2013年海事科学研究科長、2015年副学長、2019年理事。2007年〜2008年度日本保健物理学会長、2014年から放射線審査委員会。趣味:サッカー観戦、ゴルフなど。

PD-パネリスト

神戸大学 理事 副学長
小田 啓二

プロフィール:1987年読売新聞入社。経済部で経産省、財務省、外務省、内閣府、国交省、総務省などの主要官庁や民間企業を取材。シンガポール特派員(アジア経済担当)、アジア総局長(バンコク駐在)も歴任し、計6年半にわたってASEANIに駐在、現地情勢を取材した。著書は、ASEANを巡る通商交渉の舞台裏や経済力を分析した「ASEAN大市場統合と日本」(文眞堂、共著)。趣味は旅行。

PD-パネリスト

神戸大学 理事 副学長
小田 啓二

第4回 7/6(土)

10:40-12:10

地球温暖化問題にどう取り組むかー日本が果たすべき役割を中心にー

世界各国の共通の課題の一つである「地球温暖化問題」とは何かを、過去の経緯から最新の交渉状況を変えて講義する。このことが各国の政治、経済に及ぼす影響、とりわけ日本が温暖化とエネルギー問題に関してどう対応していくべきか、国民、企業、国の役割は何かを考えながら、グローバル化への対応を考えてみたい。

PD-パネリスト

JAPIC 専務理事・事務局長
丸川 裕之

プロフィール:1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵(現日本製鉄(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。

PD-パネリスト

神戸大学 理事 副学長
丸川 裕之

第5回 7/13(土)

10:40-12:10

モビリティ革命とMaaS(マース)

モビリティ革命の本命と言われる「MaaS:Mobility as a Service(マース)」。様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の交通サービスがMaaSです。本講義では、MaaSが私たちの都市やライフスタイルにどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

PD-パネリスト

(一財)計量計画研究所 理事 兼 研究本部企画戦略部長
牧村 和彦

プロフィール:1990年(一財)計量計画研究所(IBS)入所。東京大学博士(工学)。愛知県出身。都市・交通のシンクタンクに従事、将来のモビリティ・ビジョンを描くモビリティデザイナー、代表的な著書に、「MaaS～モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ(日経BP)」、「バスがまちを変えていく～BRTの導入計画作法(IBS出版)」等多数。

PD-パネリスト

神戸大学 理事 副学長
丸川 裕之

プロフィール:1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵(現日本製鉄(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。

PD-パネリスト

神戸大学 理事 副学長
丸川 裕之

プロフィール:1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵(現日本製鉄(株))入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物

社会基礎学 推薦文

【過去の受講生より】

国際人間科学部 1回生

01

この講義を受けることで、新たな知見を得られるのはもちろんですが、「日本人としての自分」を見つめ直す良いきっかけにもなると思います。急激にグローバル化が進む中で、海外へ、という動きが見られますが、そんな時代だからこそ、我々は、より強固なアイデンティティが求められるように思います。この講義では、現代の社会の動きを様々な分野の最前線の方々に教えていただきながら、じゃあ、これからどういったことが我々に求められるのか、何を学生生活の中で学ぶと良いのかをもう一度考える良い機会になると思います。また、私は昼食会に参加することで、文理両方のそれぞれ異なるバックグラウンドをもつ学生と意見交換する機会も得ることができました。ここでは、普段絶対に自分なら思いつかないような意見、価値観を交わすことができ、本当に楽しかったです。色々な視点から物事を見たり、自分と違う価値観をもつ人に出会ったりする場面が今後増えると思いますが、その時に自分はどうあるべきかということを学ぶことができました。

文学部 1回生

02

私たちはグローバル化と呼ばれる世界に生まれた時から放り込まれていて、その言葉を聞くことなしに1日を終えることはほほえないと言って良いでしょう。しかし、その意味は？と、いき訊ねられたら？ それに対するあなたの意見は？と訊ねられたら？ ドキッとするのはないでしょうか。さらに、そのなかであなたは日本人としてどう振る舞えば良いと思いますか？なんて聞かれたら、それこそ閉口してしまうのではないのでしょうか。それに対する正しい答えというものはきっとありません。でも、この講義を受ければいつか聞かれてしまうかもしれないこれらの質問に対するヒントを得られます。そして何よりも、現在、世界規模で起きている地球温暖化やテロとの闘い、各地で頻発する紛争や情報化社会がはらむ問題といった混沌とした種々の問題に対して理解を深めるだけでなく、実際に世界の第一線で活躍される方々のお話を聞くことで、それらを身近な問題としてとらえることができます。そこから、自分が何をすべきか、そのためにどういった大学生活を送るべきか、おのずから見えてくるはずです。

工学部 1回生

03

この講義で、いちばん良いと思ったことは、講師の方々の活躍されている場が本当に多岐にわたっていることです。ある一つの立場からだけの考え方でなく、たくさんの切り口からの考え方についてのお話を聞くことにより、かたよっていないフラットな状態で、自分はどうか、ということについて考えることができるように思います。また、普通に大学に通っていたのでは知ることのできないことについても教えていただくことができました。例えば、私は工学部なので、金融についての講義を聞く機会はほとんどありません。しかし、今回の授業でお話を聞くことができました。全く何も知らなかったので、初歩的なことから教えてもらって、とても勉強になりました。

海事科学部 1回生

04

海事科学部は2年次より深江キャンパスでの専門科目がほとんどとなるため、1年の間に少しでも多くの教養や考え方を身に付けようと思い、社会基礎学の受講を決めました。講義においては「グローバル化」や「海外で働くために」といったお話が多く、外航船の船員を目標としている私には有意義なものが多くありました。それ以外にも、「ASEAN市場」や「アジア経済」あるいは「(港湾等を含む)インフラ」「日本の鉄鋼業」等のテーマがあり、海事科学部のどの分野を目指す人にも、あるいは、まだ進みたい分野が決まっていない人の進路選択にも役立つものであると感じました。講義をして下さる先生方は、普段はなかなかお会いできない、各界のトップリーダーの方々に、私達からは見ることのできないような、素晴らしい見地からお話して下さい、非常に白熱したものでした。講義後の質疑応答で先生と直接意見を交わせるのはもちろんのこと、質疑応答後も残って議論して下さいる先生もいらっしゃり、非常に濃密な授業です。是非、知見を深め、素養を身に付けることのできるこの講義を受講することをおすすめします。

法学部 1回生

05

社会基礎学を受講するメリットは大きく分けて2点あります。1点目は、やはり社会の最前線で実際にご活躍されている実務家の方々のお話を聞けるということです。神戸大学における各学部の授業は、非常にレベルの高いものではありませんが、「世界では何が起きているか、グローバル化が進む中で私達はどうかすべきか」という現実的なことを知ることができるのは、この講義しかありません。2点目は、教養の豊かな、レベルの高い学生と同じ授業に参加できるということです。私がこの講義に参加して一番驚いたのはこの点です。「同じ大学の同回生なのに、知識レベルがこんなに違うんだ。僕も頑張ろう」と刺激を受けます。

経済学部 1回生

06

この授業は、普通の授業だけでは学べないような様々な分野に触れることができる大変有意義な授業です。来て下さる先生は、日本のリーダーと言えるような素晴らしい先生ばかりで、話を聞いていると、自然と自分も大きな目標で物事を考えるようになってきます。土曜日の長時間の授業なので、大変ではありますが、様々な問題を自分のこととして考え、自分の将来へとつなげていくきっかけにもなると感じます。私はまだ将来やりたいことが見つからないのですが、同じような状況の方はぜひ参加して、興味のある分野を探したり、幅広い教養を身につける場にしたいと思っています。

経営学部 1回生

07

この講義は、第一線で活躍なさっている先生方のお話を聞くことができる貴重な機会です。今までの自分の思い込みを断ち切ることができるので、自分が今まで考えたこともなかったような考え方に触れることもできるので、本当に自分のためになると思います。グローバル化の中で実際に活躍なさっている方のお話を聞くことは、グローバル化についての本をただ読み、ネットで調べるよりも、よりリアリティを持って自分の中に入れてくると感じます。自分が将来、海外で活動することを視野に入れている、あるいは、そうでなくとも、世界に興味がある人は是非受講してみてください。とても刺激になる講義だと思います。少しでも受けようかな、という気持ちのある人は受けて損はないと思います。

理学部 1回生

08

2018年、日本は否応なしに変革の岐路に立たされます。グローバル化の進行はもとより、「2018年問題」とも言われる少子化の進行、医療制度の改革、その中で象徴的な天皇の退位宣言と、単に今までの「今年は変わる」と言ったようなものではないような変革が立ちこめます。その中で、世界のトップで活躍される方々の話を聞いて、現状を把握し、考えることは非常に大切だと思います。よく「大学の授業は退屈で、しかも役に立たない」と言われますが、この授業の先生方の話はワクワクするようなものばかりで、しかもすぐに役立ちます。

農学部 1回生

09

普段聞くことの少ない、経済や金融の話を知ることができて良かったです。また、ある1つの課題に対して、文系、理系の垣根を越えた、様々なアプローチがあるということを知ることができ、視野が広がったように感じます。先生方の話は、正に今現在の課題や、ニュースになっていることに関連した話題も多かったので、興味深かったです。今後の学生生活を、強いては自分の将来を考えるうえでの糧になったと思います。

医学部 1回生

10

今後は医療の現場においてもグローバル化(多人数、多職種との連携)が進むであろうと考え、この講義を受講することにしました。実際に各界で活躍されている講師の方々のお話は興味深いものばかりであり、とても参考になりました。また、講義に対する同世代の意見、特に他学部生のは自分にとって新鮮であり、とても良い刺激になりました。自分の専門分野だけではなく多角的視点を得たいと思う人は是非この「社会基礎学」を受講することをおすすめします。